

2020年2月号 No.355



表紙 「冬の公園」(木場公園) 2012年12月20日

親鸞聖人はお念仏とのご縁を本当に喜んだ人なんだなと風景を描きながら想う。

森 孝之 [東京三組 福成寺門徒]

昭和37年、東京都江東区深川に生まれる。
美術学校や画家に師事することなく水彩による風景画にのめりこむ。
以来30年あまり水彩画の奥深さにとりつかれ現在にいたる。
公募展に出展することもなく、現場で描く事を楽しんでいる。

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2020年2月1日
編集 教化委員会広報・出版部門
発行 真宗大谷派東京教区教化委員会
〒177-0032 練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館
TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net

もくじ

特集

- 03 “お取越” ってなあに？
-
- 07 法語ポスター
教区教化通信 研修部門
-
- 08 新教師のつどいのご案内 稲垣 和弘
教区教化通信 広報・出版部門（出版班）
-
- 09 門徒宅用掲示板取材 伊東 良宣
教区教化通信 「同和」協議会 吉岡 康裕
-
- 10 第2回部落問題基礎講座感想 加藤 成和
教区教化通信 教学館
-
- 12 私の出遇った言葉 内藤 望
教区教化通信 大谷保育協会
-
- 13 子育ての大地 稲垣 智之
教区教化通信 首都圏教化推進本部
-
- 14 都市教化の扉
ご案内
-
- 15 小笠原元展～春をたずねて～
はい！こちら真宗会館です
-
- 16 駐在日記 佐々木 弘明
はい！こちら真宗会館です
-
- 17 所員のつぶやき 椰野 大輔
-
- 19 敬弔・涌 中村 晃
-

”お取越”ってなあに？

今号の特集では、「お取越」について取り上げたいと思います。「お取越」とは、ご本山に先立って、各ご家庭や地域で報恩講のお勤めをすることをいいます。

このたびお世話になった茨城1組の妙安寺さん(猿島郡境町)では「お取越」を大切な仏事として行なっています。

妙安寺さんのお取越は、まずみんなで声を出して正信偈(真四句目下)と三淘(報恩講和讃次第二首)のお勤めをします。その後、一人ずつ阿弥陀様の前でお焼香をしていただき、ご住職が法話をされます。今回は正信偈についてのお話をいただきました。その後は皆で机を囲み、お齋(食事)をいただきました。

今回お話しをお聞かせ頂いたのは、妙安寺ご門徒の、「染谷地区」の皆さんです。この「染谷地区」はご近所の7軒で一つのグループを構成しています。各ご家庭から代表者の方が集まってお取越をお勤めしています。お勤めをする会場は各家庭が順

妙安寺の中村御住職と染谷地区の皆さん



番に担当しており、担当になったお宅を「宿(やど)」と呼んでいます。それではさっそく染谷地区の皆さんにお話しを聞いていきましょう!!

こんにちは！今日はよろしくお願ひします。
染谷地区の皆さんはいつからお取越を行なっているんですか？



私たちの親の世代はすでに行なっていたそうです。前の住職さんが家に来て皆がお勤めをしているのを子どもながらに何かをやっているなと思った記憶がありました。それから一旦お休みをしている時期があったんですが、その後私たちがまた復活させました。それが確か1986(昭和61)年の12月8日です。

それではもうずいぶん前からやっているんですね。
昔のお取越と今のお取越で違うところはありますか？



昔は子どもたちも連れて家族で来ていましたが、今では宿のお宅以外是一家から1人が参加するように変わりました。しかし宿の子どもは参加してくれています。



▲お子さんも一緒におつとめ

お取越をしてきて思い出に残っていることや大変だったことはありますか？



宿になると、やはり皆さんを迎え入れるための準備が大変です。でも最近は皆で一カ所に集まることがなかなかないので、お取越は貴重な機会ですね。

お取越をここまで続けてこられたヒケツは何ですか？

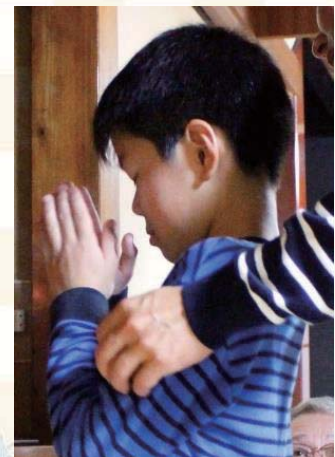


昔はお齋の料理を家で作っていたのでとても大変でした。今は仕出しを頼んだりしてお齋作りの負担を減らすようにしています。あとは皆の結束力がいいんじゃないでしょうか。また、「宿」を7軒で順番に回しているという責任感もありますね。

「宿」を1年ごとに持ち回りで担当するのが面白いですね。他のお家へお参りに行ったり、他のお家の人が自宅のお内仏に手を合わせるということをどのように感じますか？



うちはもともとお内仏がなかったので、新しく用意するのが大変でした。他の人が手を合わせるということで、普段からお内仏を大事に維持させて頂いています。自宅のお内仏をお見せするのは恥ずかしい気もしますが、手を合わせて頂けるのはありがたく思います。また、普段は他のお宅のお内仏をお参りする機会が少ないので、お取越をご縁にお参りできるのが良いですね。



法事とは違ったお取越ならではの魅力はどこにありますか？



ご近所が一つの家を集まって、お内仏の前でしっかりとお勤めをして、一年間の各家庭の様子を気兼ねなく聞いたり話したりするのがいいですね。ちょっとした忘年会みたいな感じですね。

これからのお取越について
思うことはありますか？



若い世代の人たちの中には、「お取越なんてなくてもいいんじゃないか」と思う人もいます。実は私も初めはそう思っていました。でも実際にお取越に出るようになって考えが変わりました。小さい頃に見ていた親のお勤めする姿が今に繋がっています。ぜひ若い世代の人たちにも出てもらって、これからもお取越が続いていてほしいと思っています。



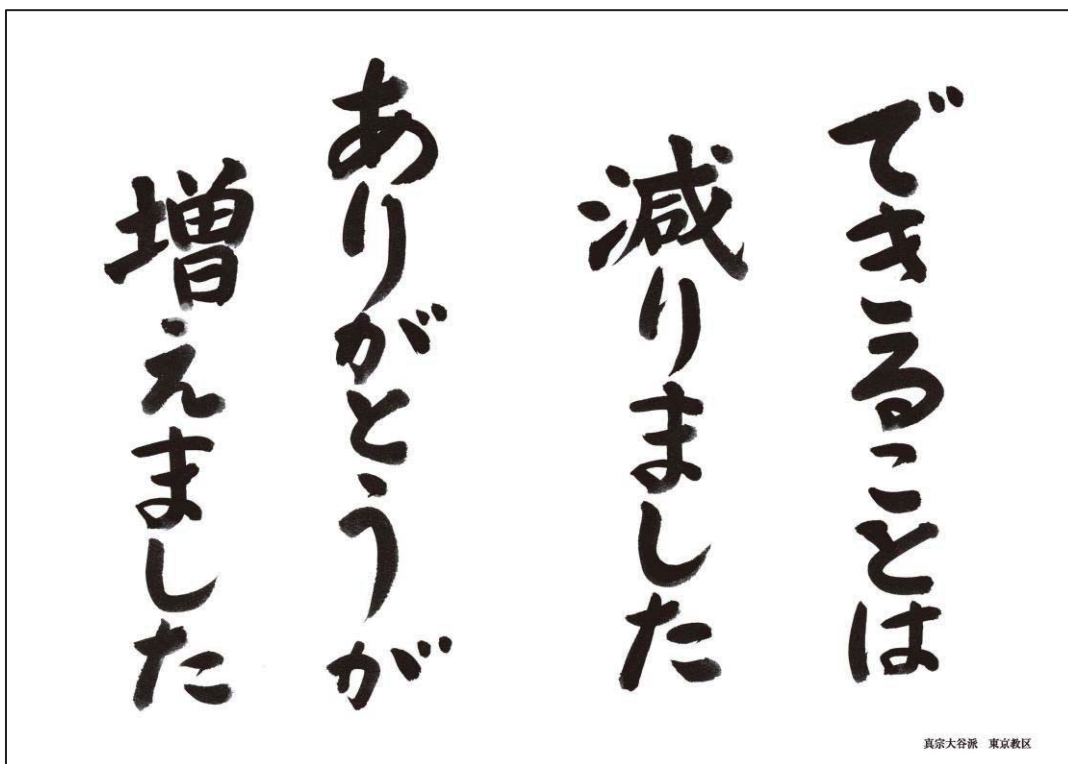
今回の取材でお取越にお参りさせていただき、子どもたちが真剣に勤行本を読んでいる姿に心が打たれました。わからないながらも「これは何か大切なものなのだ」と感じ取っていたのでしょう。寺離れと言われるこの時代ですが、この光景が長く残っていて欲しいと思いました。

また、皆さんからのお話を聞いていますと、お取越を続けていく中にはたくさん苦労があることがわかりました。その大変さから辞めたくなるような事もあるかと思えます。皆が一つになり苦労をしながらもお取越を行っている姿が美しく感じるとともに、煩わしさから逃れようと生活している自分のあり方を問いかけてくるようでした。

染谷地区の皆様には取材にご協力していただき、ありがとうございました。



今月の法語



- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

教区教化通信 研修部門

新たに「教師」となった皆様へ

「新教師のつどい」のおしらせ

新教師のつどいスタッフ 東京1組 通覚寺 稲垣 和弘



▲ 新教師のつどい参加者及びスタッフ(2018年度新教師のつどい)

東京教区研修部門では今年度も「新教師のつどい」を開催いたします。

このつどいは、真宗大谷派教師資格を取得して3年以内の方を対象とし、「共に歩む仲間との出遇い」をテーマとしています。

新たに教師資格を取得された方は、大谷派教師としてそれぞれの場所で活動をされていることと思います。その環境、状況はお一人おひとり違うことでしょう。

それぞれに自分自身の場所で活動しながら、資格は取得して大谷派教師となったけれど、これでいいのだろうか？と不安や疑問を抱えているというのではないのでしょうか。

大谷派教師とは…それはどこかに理想像があり、答えがあるものではなく、人や言葉との出遇いによって問い直され、再確認、再発見し続けることこそ大切なことだと思います。このつどいでテーマとしているのは、ただ単

に気の合う仲間や心地よい言葉との出遇いではなく、共に歩ましめるものとの出遇いです。そんな出遇いの場として、新たに大谷派教師となられた方はぜひ「新教師のつどい」にご参加下さい。また既に大谷派教師となられ長年を経た方は、縁ある新教師の方へご参加をお勧めいただきますようお願いいたします。皆様のご参加お待ちしております。



▲ 講師の雲井一久氏

新教師のつどい

開催日…2020年4月29日(水・祝)

場 所…東本願寺真宗会館

講 師…雲井一久(横浜組 真照寺)

講 題…「問いを学ぶ」

※詳細は同封の案内チラシを「ご覧ください」。

門徒宅用掲示板取材

東京5組 神足寺 伊東良宣



浄眞寺 前田 暁 氏

桑原 登喜夫 氏

広報・出版部門では、伝道掲示板を設置していただいているご門徒宅を訪問し、反響や問題を伺うことを継続的に行っています。

- ◆ 今回ご紹介するのは、千葉組浄眞寺門徒の桑原登喜夫さんのお宅です。桑原さんのお宅は、千葉県我孫子市の閑静な住宅街にあり、掲示板は門扉に接している塀の上に設置されていました。掲示板は住職に勧められて2016年に設置されたとのことでした。桑原さんより伺った設置後の状況や反響をいくつかご紹介します。
- ◆ 近くに公園があり、散歩道になっていて言葉を貼り替えていると声を掛けられることがしばしばある。
- ◆ 周辺には大谷派の寺院がないので、「この辺りに大谷派のお寺があるのですか」と聞かれたことがある。
- ◆ 夜の暗い中、高齢者の女性が言葉と味わいをノートに書き写していた。
- ◆ ひと通り言葉を味わってから季節に合うような言葉を選んで掲示している。
- ◆ 学生や子どもも通るので、わかりやすい

- ◆ ものがあってもいい。但し、やさしい内容であつても真宗に関するものがいい。ポスターの色を変えるとか、パッと目に留まるものもいいのではないかと。

桑原さんは1988(昭和63)年に現在の地に家を建てられた際に、岐阜のお父様がお内仏を買い与えてくれたそうです。そして、生活の中で色々な問題があつたけれども、お内仏があつたおかげで、心の拠り所があり、今があるとのことでした。やはりそこにはお内仏を中心に据えた生活が基本となつていました。部屋を見渡すと、法語カレンダーのカレンダー部分を切り落として法語だけになつた様々な法語が掲げられていました。そこには生活の中に常に教えをいただいている桑原さんの姿勢が表れているようでした。

最後に、取材当日は大勢でお邪魔した我々を温かく迎えてくださった桑原さんご夫妻には厚く御礼を申し上げます。

「門徒宅伝道掲示板」設置の募集
ご自宅の塀等をお貸しいただけるご門徒を募集いたします。設置は無料、ポスターを無償送付致します。お申込み、お問合わせは東京教務所(担当:粟生)までご連絡ください。

教区教化通信 「同和」協議会

「2019年度第2回 部落問題基礎講座」感想

2019年11月19日(火) 於真宗会館

講師 西田 眞因氏 (元教学研究所有長)

千葉組了因寺 吉岡 康裕

差別問題について、私は「沖縄差別」に関心を持っており、煩惱具足の身を生きる者同士として、関係門徒と共に知り考えるべき課題であるという思いから「沖縄差別」を聞法会や法事の法話に取り入れています。

特に、四十八願文の第一願には、差別から起こる悪しき社会現象(戦争・貧困・恐怖)の無い国土こそが「浄土」であると誓願されている。第二願には還相の菩薩の誕生を誓願し、第三願と第四願には、人種・外形の美醜による差別の無い国土が浄土であると誓願される。この浄土に往生した者に、どのような優れた能力を持つ生き方が生じるのか、第五願から第十願までの「六神通の願」にそのことが誓願され、そして、第十一願「必至滅度の願」には、その往生人は退転することなく

必ず「滅度(涅槃)」に至ると誓願されている。そのように私は領解しています。この誓願に背く生き方が、「差別」に無関心のままに生きることであり、それは無自覚のまま人間性を喪失しつつある姿ではないだろうか。

このことから「是旃陀羅の差別問題」もこの門徒と共有し共に考えるべき課題であると思い、確かな理解の無いまま聞法会で話をした際に、参加門徒から次の質問がありました。

『観経』は、親鸞聖人が選ばれた三部経の一つであり、積尊が説かれたお経ではないですか。そんな大切なお経の中に『差別』というような罪深い言葉があるのですか。『いつ、誰が、どのような意味で差別であると言うのか。そして教団(あなた)は、どのように受けとめているのですか』また、親鸞聖人ご自身は、この差別語についてどのように捉えているのですか。そのことを教えて欲しい(質

問文は、要約したものです。)

この質問は私に対する問いであり、応えられなかったことから、この差別問題について自分の無関心さを痛切に知らされました。

このことから、講師である西田眞因先生の講義に参加しました。講義の中で注視したのは、『本願の莊嚴史』は『転成の論理(転悪成徳・善)』であり、『廃悪修善』ではない」という板書されたご教示でした。「差別する悪因も差別される悪果も、悪因、悪果が共に転じて徳善と成る」という意味なのか。これは、私の課題として思索したいと思う。もう一つ驚いた言葉は、「難波別院輪番、訓覇氏、曾我氏、清沢氏など、教団内の行政者、教学者などによる差別発言がありながら、未だ差別問題について教団の対応が停滞した状況にあるのは、政治判断の問題である」という発言でした。私の理解では、教学者であれば「信心の問題である」と言うのではないだろうか。元教学研究所有長という同じ行政職に就かれていたこと、教学者の知見として信心が曖昧になっていた現状を憂慮されての自省的発言だったのだろうか。

群馬組了覺寺 加藤 成和

『観経』に差別者が出てきたり、差別表現が出ていたりする。それを排除する、排斥する、そして、正しい形にする。結構な話だ。それでいいのだろう。時代に合わせれば良い。不都合なものは消せば良い。世間と全く同じ論理をもって経典を改編すれば良い。世間の論理をもって仏心を頂ければ良い。そして同じ事を繰り返せば良い。正に流転の相を現してみれば良い。

経典に出てくる人は間違いを犯さない人に限定されれば良い。善人で構成されれば良い。きつと仏教は善人のものだからだ。如来は善人だろう、菩薩は善人だろう。

善人にも悪人にもなれない私には息苦しくて仕方がない。そこが生きる場所ではないからだ。つまり、部外者、傍観者の立場で関わっているのだという事を教えてもらったのだ。

今回は「鎌倉フィールドワーク」です

ご参加ください！

「同和」協議会会長 岩寺 徹

鎌倉という地は覚如の『口伝鈔』の「一切経校合のこと」ということで知られている。しかしながら、同書にある親鸞が聖光房弁長を黒谷の聖人の禅房に案内したというくだりは、残念なことに歴史的捏造、虚偽である。また『改邪鈔』の「末法相應の袈裟は白色なるべし。黒袈裟においてははおおきにこれにそむけり」という記述も、官僧は白衣を着け遁世僧は黒衣を着けるといった当時の衣の色から考えると、「禿の字をもって姓とす」と自ら賤民宣言をした親鸞と真つ向から対立する主張となる。そういった意味で、覚如の著作内容は非常に疑わしいことが解る。

私たちは覚如の主張に抛らずに親鸞の行実をあきらかにしていかなければならない課題を負っている。中世の鎌倉を知ることが、親鸞の生きた時代社会を知ることにつながっていくのである。



第3回部落問題基礎講座

(鎌倉フィールドワーク)

日時 .. 2020年3月31日(火)
 場所 .. 鎌倉方面(化粧坂切通し他)
 講義会場 .. 鎌倉婦人子供会館

※詳細は同封の開催案内をご覧ください

教区教化通信 教学館

私が出遇った言葉

湘南組 長徳寺 内藤望



「身としれ」

先日、茨城一組の坊守会研修に講師として呼んでいただいた。理由はご存じの方もあるかと思うが、現在の立場が坊守であるからである。2016年4月に長徳寺へ入寺して已来、組の坊守会は勿論、教区の坊守会に顔を出し、はたまた駐在に言われるままに本山の坊守就任式まで参加した。そんな中で、一度話を聞いてみようということになったのではないかと思う。拙い話しかできないのであるが講師という立場で伺わせていただいた。話としては、今までの経緯と現在思うことなどを話し、また座談会では参加者それぞれのことをお話しいただいた。

参加者の中には女性住職の方もおられたがお話をお聞きすると、男性の中に入ると自分

の扱いに困っている様子を見受けることがあるとおっしゃっていた。このことは確かに妻からも聞いたことがある。そこから自分に引き当てて思い返すと、坊守会に参加させていただけで3年になるが一度も邪魔にされた覚えがない。分け隔てなく付き合ってください。逆には、いつもいつも有り難く感じている。逆に、男性の方からいつまで坊守をやっているんだという声を聞くような気がする。先の座談会の中で、女性の方が順応性があるからというようなことをお聞きしたが、確かに違いに敏感なのは男性の方なのかもしれない。

12月の講義の中で「罪悪生死の凡夫、曠劫よりこのかた、つねにしずみ、つねに流転し

て、出離の縁あることなき身としれ」という『歎異抄』の言葉をいただいたが、特に西田先生は「身をしれ」ということを繰り返しておっしゃられたと記憶している。身をしるということは、そういう身の事実立つということだと思ふ。その事実立たない限りいつまでも人ごとになってしまう。

先日の研修会に呼んでいただいたことで、私自身は今の自分と向き合い、身の事実を認らせていただき、とても有意義な一日であった。改めて「身をしれ」という言葉をいただきたいながら、2時間ちよつとの帰路についた。

第12回 教学館月例研修会

2019年12月11日～12日

基調講義…真宗原論

・阿弥陀佛と知の被限定性の臨
界点に立ちつゝの私論

西田 眞因氏（元教学研究所所長）

特別講義…「漢字仏教文化圏における

相互交流の諸相」

石井 公成氏（駒澤大学 仏教学部 教授）



勝ち負けを超えたもの

羽沢保育園は、横浜の田園風景の中にあります。隣に横浜市立羽沢小学校がありますが、それ以外の周囲は竹林と畑に囲まれています。横浜の保育園としては珍しく、きちんと園庭もありますし、送迎用の駐車場が広いのも自慢です。交通の便が悪いのが悩みでしたが、先日徒歩 18 分位のところに、相鉄と JR が相互乗り入れする「羽沢横浜国大駅」という新駅が出来ました。3 年後には東急東横線にも乗り入れるそうです。



ところで、羽沢保育園の運動会では、最後の種目に年長組によるクラス対抗リレーを行います。年長組の 2 クラスがリレーで競い合う種目です。大変盛り上がる種目です。

リレーは競技ですから、それぞれ懸命に走り互いに勝利を目指します。その姿は本当に真剣ですし、妥協は一切ありません。勝てば喜び、負ければ本

当に悔しがります。

また、羽沢保育園には障害を含め様々な特徴を持ったお子さんが大勢通っています。中には、走る事が苦手なお子さんもあります。リレーの勝ち負けだけで言えば、そんな子がいるチームは大変不利です。ですから、練習も含めなかなか勝つ事が出来ません。

それでも、子どもたちが負けた事を誰かのせいにする事は決してありません。明らかに遅い子がいても、「誰々のせいだ」というような事を言うのを聞いた事はありません。

練習の時も本番の時も、一生懸命走り一生懸命応援し、勝っても負けてもみんなで取り組んでいる姿に感心します。本当は色々な思いがあると思うのですが、そういう思いを超えた、友情や人間関係があるのだと思います。

しかし、負けてもいいという事ではないので、懸命に走り、懸命に応援します。勝ち負けや損得を超えた、子どもたちのそういう姿にいつも感動させられています。

社会福祉法人 徳風会
羽沢保育園
(神奈川県横浜市)
理事長 稲垣智之



都市教化の扉



首都圏
教化推進本部

みんなのヨリドコロプロジェクト 始まります！

東本願寺真宗会館は、2019年11月をもって設立30周年を迎えました。

言葉に出会い、人はつながる。
これからも、ずっと。

真宗会館は、「日曜礼拝」や「親鸞講座」をはじめ、様々なカタチで「真宗の縁づくり」を行ってきました。それは、首都圏に住まわれる方々に教えに触れてもらうことができる機会と場を考え、その模索をしながらの歩みでもあります。

そして30周年を迎えるにあたり、今回改めて、真宗会館とは「どういう場所か」「どういう場所を目指すのか」という原点に立ち返り、記念事業を企画いたしました。

まず、コンセプトコピーとして、

言葉に出会い、人はつながる。これからも、ずっと。



ちがいを認め合い、ありのままに受け止めて下さる教えに出会う場所として、真宗会館が存りつづけたという「願い」を込めました。

そして、もう一つ。「みんなのヨリドコロプロジェクト」というタイトルで30周年の事業を開催します。

みんながヨリアウトコロ。みんながデアウトコロ。みんながヨリアウお寺。

お寺は地域に開かれた場所でした。小さいお子さんからご年配の方まで、あらゆる方々のヨリドコロだったはず。けれども、今は、近くても遠い存在に感じている方々が多くなってしまっています。

そこで、まずは真宗会館の近くに住んでいる方々に“ココに”来ていただきたい。近くに住んでいる方と出会う機会がほしい。そんな想いを、「みんなのヨリドコロプロジェクト」という事業として展開して参ります。

「ずっとお寺と縁がなかったけど終活を機に……」「子どもたちの健やかに過ごせる居場所が……」。そんな想いを抱えた方々と出会える機会となり、次世代にも教え手渡していくことができるように開催いたします。



詳しくは「みんなのヨリドコロプロジェクト」のSNSをご覧ください



成川美術館 企画展 予告

小笠原 元 展

～春をたずねて～

徹底した現場での取材と写生に基づく小笠原の風景画には、自然の光や風が感じられます。桜をはじめとした花咲きみだれる里山や、新緑の鮮やかな季節を描いた作品を中心に展示します。(成川美術館ホームページより)

開催期間 2020年3月12日(木)～
7月15日(水)

2018年7月から2019年6月まで、本紙『ネットワーク9』の表紙を飾っていただきました、小笠原元氏による日本画が「成川美術館」(神奈川県箱根町)の企画展におきまして展示されますのでご案内申し上げます。

おがさわら はじめ
【小笠原 元】(東京1組榮敬寺住職)
武蔵野美術大学大学院日本画専攻修了
第11回山種美術館賞展優秀賞受賞
創画会所属個展を中心に活動。
風景との一期一会を重んじ、取材にカメラは一切使用せず、徹底した現場デッサンと現場での肌ざわりを大切に
する今日の実感派の日本画家としてご活躍されています。



小笠原 元『峠の春』

住 所	〒250-0522 神奈川県足柄下郡箱根町元箱根 570 番		
電話番号	0460-83-6828	開館時間 9:00～17:00	休 館 日 無休
入 場 料	※ () 内は団体 (10名以上)		
	一般	1,300円 (1,100円)	
	大学生/高校生	900円 (700円)	
	中学生/小学生	600円 (500円)	
	幼児	無料	




はい！こちら真宗会館です

駐	在
日	記

駐在からひとこと
2020年もよろしく願いいたします

写真：私の真宗会館事務所の席はココです
入口から一番遠い場所ですが
お気軽にお越しください



東京教区駐在教導

佐々木 弘明

「一瞬」

40歳になり、区切りの歳でもあるので、中学校時代の同窓会が年始に開かれた。

同窓会に参加してみると、テーブルが割り振られていて、私のテーブルは、全員が当時サッカー部に所属していた友人で、顧問の先生の席もあった。

中には20年ぶりに会い、髪の毛が薄くなっていたり、お腹まわりに贅肉がついている友人(自分も含めて)もいたが、どこか当時の面影を感じることができ、話題に困ることはなく、当時のあだ名で呼び合い、お互いの近況や当時の思い出を語り合ったりして、大いに盛り上がった。

他にも昨年の年末から今年の年始にかけて、久しく会っていなかった友人と会う機会が何度かあった。その中で、ふと思い出したことがあった。それは、誰が言っていたのかは記憶にないのだが、法話の中で「出遇いは一瞬である」

ということを知ったことである。

法話の中での意味は、教えとの出遇いという意味だと思うが、人と人の出会いということにおいて、今回の友人との再会のことを思うと、20年の間接点もなかった友人と、20年ぶりに会った瞬間に、20年という空白の時間があっという間になくなり、あたかも20年間関係が続いてきたかのようにお互いが打ち解けるということがあった。一瞬で人と人は出会い直せる、出会い続けられるということが、本当に嬉しく感じられた。

私たちは、日々時間に追われて生きているが、人間の関係性における時の流れは、追われて生きる時間の流れと違って、自分を生かし続けてくれる時の流れではないかと感じている。

この年末年始で久しぶりに出会い直した友人全員に「おまえは、相変わらずわがままだな」と言われたことが気にかかっている。

はい！こちら真宗会館です



東京宗務出張所次長
 榑野 大輔

担当：東京宗務出張所業務全般の管理
 首都圏教化推進部門全般の管理

最近ハマっているモノ：60年前のストーブ



真宗会館に赴任して間もなく1年になる。情報、文化の最先端である東京で生活しているながら、ある意味でその恩恵を享受していない。と言うよりも恩恵の外に自分が居る。

若い頃から古いモノが好きで、身に着けるモノから日常品まで、半世紀を過ぎたモノで溢れている。古いモノは長年、人の手で使われて来た歴史が味となって、新品の時よりも佇まいが良くなっていると感じる。今時のモノのように機能的でない分シンプルで、大量生産時代とは違い良質な素材でしっかりと作られている。

古いモノに興味をもって久しいが、これには良い面と悪い面が存在する。良い面は、何でも直しながら長く使うので、極端に物持ちが良いということだ。例えば、坊主頭を卒業した高校1年生の時に買ったクシを、もう30年以上使っている。プラスチック製の安物のため、何度も折れて、そのたびに接着材で直しているの、形がイビツ

になってきている。他に、旅行や出張で使う携帯用の洗顔料は、試供品が丁度良いサイズだったので、使い切ると中身を充填して20年以上使っている。しかし、そろそろラミネートチューブの限界を迎えようとしている。

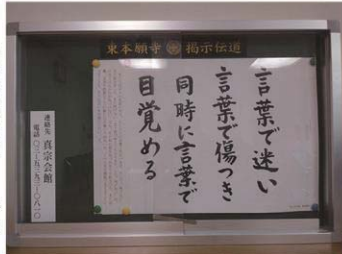
悪い面はというと、モノが捨てられないという事だ。長く使うと愛着が湧き、そう簡単には処分できない。これは転勤族にとっては致命的で、モノが押し入れには収まりきらず、居住スペースを侵食しつつある。また、何を買うにしても、一般的に売っているのとは違うモノを物色してしまうため、選択肢が極めて狭い。ちょっとしたモノでも気軽に入手できず、だんだんと身動きがとりにくくなってきた。自縄自縛とはこのことだとつくづく感じている。

しかし、この不便でいて心地良い古物地獄から、まだ暫く抜け出せそうにない。

「門徒宅用伝道揭示板」設置の募集

東本願寺 揭示伝道

・揭示板サイズ
高さ58cm 幅87cm 重さ約10kg



③ お申し込み、お問い合わせは東京教務所（担当…粟生）までご連絡ください。

② 揭示板は無償で設置いたします。（教区が全額負担）

① 内容
教区教化委員会発行の法語ポスターや同朋大会等のポスターを揭示していただきます。（揭示物は教区から送らせていただきます）

ご自宅の塀等をお貸しいただけるご門徒を募集いたしますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

教区の情報をおあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作ませんか？

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



宗祖親鸞聖人

御誕生

立教開宗

850th
800th

真宗大谷派(東本願寺)



南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

このたび、慶讃法要及び慶讃テーマのロゴが制作されました。種々の機会に活用していただければと思います。

ロゴのデータは**真宗大谷派寺院・教会専用サイト**にて公開されております。(右図のQRコードもご利用ください)

HP→ <https://www.higashihonganji.or.jp/ohhaniha/>

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年

真宗大谷派(東本願寺)



宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年

大谷専修学院を卒業してから1年弱が経とうとしています。以前の私はサウンドエンジニアとして働いていました。聞き馴染みの無い職業だと思いますが、いわば音響屋さんです。業界では「PA」と呼ばれています。様々なイベント現場で、マイクやスピーカーといった音響機材を設置し、本番中は調整機器を操作し、終演後には機材を撤去搬出する裏方の仕事です。朝は早く夜は遅く、時には徹夜作業もある不規則な生活リズム。重い機材を扱い、現場があれば全国どこへでも飛び回る重労働。本番でミスをすれば取り返しがつかないという重圧。現場がなければ収入がない不安定な生活でした。それでも私はこの仕事にとってもやりがいを感じていました。

ある子ども向けのイベント現場でのことでした。公演終了後に両親と子どもの3人が仲良く手を繋いで会場から帰っていく後ろ姿を目にしました。幸せを絵に描いたようなあの光景を鮮明に覚えています。自分の仕事はどういったものを再確認できた出来事でした。私が高校生の時に、文化祭に来ていた音響さんの姿を見て「かっこいい」と感じたのがこの仕事との出遇いでした。目には見えない「音」というもので観客を喜ばせる「場」と「時間」を創出する世界への憧れでした。憧れの世界に出遇い、自らもその世界に携わる。そして、その世界に触れた観客が喜びを感じる、そういった連鎖が生まれていく。

私がいるお寺も同じではないでしょうか。目には見えない「法」によって今まで気づきもしなかった世界に出遇い、その世界に憧れを抱き、携わっていく。やっっていることは異なっても、根っこは同じなのかなと思います。自分の身が置かれた「ここ」をどういった「場」と「時間」にしたいのかを大切にしていきたいです。

(茨城1組 妙安寺 中村 晃)

涌ゆう

編集員の随筆

